

原子力学会標準委員会 リスク専門部会
第 52 回レベル 2PRA 分科会審議

日時 2024 年 7 月 26 (金) 13:30-16:00

場所 Web 会議

出席者

委員：濱崎（主査）、中村（康）（副主査）、山越（幹事）、佐藤（寿）（幹事）、廣川（幹事）、池田、宇井、大島、小野田、小谷、佐藤（圭）、中村（真）、成川、原口、松山、三浦、美原、守田 18 名出席

（欠席）石川、山路

常時参加者：平塚、橋本、友澤、大沼、羽佐田、山田、西村、小城

（欠席）阿部

議事：（発言者省略）

議事に先立ち、定足数及び配布資料の確認を行った。

議事 1 前回議事録の確認

<要旨>

廣川幹事より、資料 P10SC52-1 に基づき、前回議事録要旨（案）について説明があった。特にコメントなく、正式版として発行することが承認された。

議事 2 人事案件

<要旨>

山越幹事より、資料 P10SC52-2 に基づいて説明がなされた。白石氏、鈴江氏が委員を退任、三浦氏が常時参加者解除となり、三浦氏、大島氏が委員に選任、山田氏が常時参加者登録となった。委員の正式承認は次回のリスク専門部会でなされる予定。

議事 3 上位委員会対応について

<要旨>

山越幹事より、資料 P10SC52-3 に基づき、上位委員会（標準委員会、リスク専門部会）対応について説明された。2/26-2/29 の日程で JCNRM が開催されたこと、用語辞典コメントへの回答案を検討したこと、「地震 PRA」「外部ハザード」の報告が行われていること、が説明された。

これに対して以下の議論があった。

- ASME/ANS のレベル 2PRA 標準が 5 月に発行されており、将来、ASME/ANS 標準との比較検討が必要になる可能性がある。

- 用語辞典において、「注記」を「注釈」に変更することで問題はないが、レベル 2PRA 標準側で、「注釈」に変更するのは定義の部分だけとするか、他の標準も参考に検討する。

議事 4 レベル 2PRA 標準の停止状態拡張のための文案作成について

<要旨>

山越幹事より、資料 P10SC52-4 に基づき、7 月 31 日開催予定のリスク情報活用検討タスク及び 8 月 9 日開催予定のリスク専門部会で報告するレベル 2PRA 標準の停止状態拡張に関する資料について説明がなされた。

これに対して以下の議論があった。

- ASME/ANS レベル 2PRA 標準では、停止時にも適用可とされている。今回の改定でもそれと同等となると考えられる。

議事 5 レベル 2PRA 標準の階層化のための文案作成について

<要旨>

廣川幹事、担当委員より、資料 P10SC52-5 に基づき、レベル 2PRA 標準の階層化（記載を基準と指針に分ける）のための文案作成について説明がなされた。

これに対して以下の議論があった。

- 指針で整理していた 18.3 の内容と 18.1 の「なお」以降の部分は基準に含める。津波の箇条についても同様とする。
- 内の事象（15 章まで）では、レベル 1PRA 側に合わせて「一般事項」はなくなっているが、地震・津波事象（16 章以降）では、それが残っている。地震・津波事象は内の事象と同様な記載が多いことから、基準と指針の仕分けや記載方法は最終的に内の事象側に合わせるようにする。
- 附属書（参考）の部分は、指針の本文、指針の附属書（参考）、技術レポートに分類（色分け）を行う。今回、技術レポート作成は対象外のため、技術レポートに分類されるものは一旦削除されることになる。
- 一部の附属書（参考）には、レベル 2PRA 標準だけに記載されているが、他の標準にも記載すべき性質のものもある。レベル 2PRA 標準の階層化の状況をリスク専門部会に説明するタイミング（11 月を想定）で申し出る。
- 11 月のリスク専門部会では、レベル 2PRA 標準の階層化の状況を説明予定であり、基準のみを仕分けるイメージで説明資料を作成する。

議事 6 レベル 2PRA 標準（津波拡張版）の国際学会への投稿について

<要旨>

山越幹事より、P10SC52-6 に基づき、PSAM17&ASRAM2024 への投稿（2 件）状況に

ついて説明があった。フルペーパーの最終版は 2024 年 9 月 1 日までに投稿する必要がある。コメント等あれば 7 月 31 日までに山越幹事まで連絡する。

議事 7 今後の進め方

<要旨>

山越幹事より、P10SC52-7 に基づき、今後の分科会スケジュールについて説明があった。11 月のリスク専門部会で階層化案を 2025 年 5~6 月のリスク専門部会/標準委員会で中間報告・審議、2025 年 8~9 月のリスク専門部会/標準委員会で本報告・審議を予定。

次回分科会は、2024/10/25（金）13:30~17:00 に開催する。

議題 8 倫理教育

山越幹事より、倫理教育資料の説明があった。

これに対して以下の議論があった。

- 安全文化の醸成は難しい問題である。組織と個人のマインドあるいは組織と組織のマインドが同じ方向を向いていることが重要。個人についてはバイスタンダーを目指すという手段があるが、組織間のマインドを合わせることが難しい。
- 安全文化の醸成におけるコストの問題については、米国ではコストとメリットを定量化して、コストパフォーマンスのよい対策を選定しており、日本でもそのような仕組みを導入することができないか。

以上